



北米ホーリネス教団
オレンジ郡
キリスト教会
「週報」

2012年の努力目標

1. 朝の15分の祈りを大切に。
2. 1日2章の聖書日課に励む
3. 日ごとの写教に励む
4. 定期の祈り会に参加
4. 聖書研究・家庭集会への参加
5. 礼拝欠席の時は牧師に連絡を。

◎集会案内◎

日曜 礼拝 : 9:30~10:45am
 コヒーアワー : 日曜日 10:45~11:15am
 聖書の学び : 日曜日 11:15~12pm
 みふみ会 : 水曜日 10am
 定例祈禱会 : 水曜日 7:30pm
 早天祈禱会 : 土曜日 7am
 家庭集会 : 各地区に2箇所
 牧 師 : 杉村 幸 (日本語部)
 益田デューク (英語部)
 電 話 : (714) 827-6244 (教会)
 (714) 527-1456 (牧師館)
 E-Mail : sugimura1950@gmail.com
 教会ホームページ : www.occc.org
 教会所在地 : 4872 Bishop St.
 Cypress, CA 90630

石 叫 口

◎石叫■

「あれが氷河だ！」

先週の水曜日、氷河を見に出かけた。と言ってもアラスカではない、そこは日系人強制収容所のあったマンザナーの北にある小さな町ビッグ・パインだ。そこからシエラ・ネバダ山脈に入った所で氷河の一部が見える。それは北米最南端にあり、パリセード氷河といって幾つもの氷河が寄り集まっている。昔、サンノゼ大学の野外実習でこの近くまでは何度か来たのだが、つい見ずじまいだったこともあり、いつかこの目で実際に確かめたいと願っていたのだ。

そこで早朝出発したのは良いのだが、その日は風が強く、あいにくと小雨がパラつく始末だ。終点のグレイシャー・ロッジに車を止め、二日分の食料をバックパックに詰めて出かけることにした。だが、次第に雲行きが怪しくなり、しかも雷が鳴り始めてくるではないか。ついにはどしどし降りとなり、それが何と雹に変わったのだ。すぐに近くの大きな木の下で雨宿りしたのだが、あまりの寒さと大雨のために引き返すことにし、翌日チャレンジャーすることにした。

翌朝は打って変わって快晴である。歩き始めて知ったのだが、昨日予定していたキャンプ地までは以外と遠い。前日、もし無理を押ししてその地を目指して歩いていたら、そう思うと引き返して良かったという好奇心から、見えるまでとにかく歩こうと思ったのだが、中々それが見えない。氷河の一部が見えるものは幾つかあったのだが、その多くは崩れた岩石で覆われて全景が見えない。夕方近くなり、半分あきらめ顔で別なルートを歩いて帰ろうと歩き始めた時だった。小高い丘に林立するロジポール松の枝越しに、きれいな扇形の氷河の全景が険しい山腹にへばりついて見えるではないか。「ああ、これがあの氷河だったのか！」と思わず叫んでいた。同時にそれは後何年、氷河として存続できるのだろうかと思わせるほど小さく、そのか細さに心が痛むのを覚えたのだ。

パウロは、「いつまでも存続するものは、信仰と希望と愛と、この三つである。このうちで最も大きいものは、愛である」(1コリント十三・13)と言う。この世界は失せても、見えない世界は永続すると言う。友よ、愛は見えないが、この世界でこの愛ほど現実的なものはないではないか。それが神の世界だと聖者は言う。この氷河は少なくとも二百年前の小氷河期から存在していたといわれるのだが、その消滅は時間の問題である。見える現実には確実に消えてゆく。

「オレンジ郡キリスト教会の歩み」

オレンジ郡キリスト教会は一九七七年に発足し、東洋宣教会・北米ホーリネス教団に所属するプロテスタント教会の一つです。北米ホーリネス教団は一九二一年に創立され、現在は日英両語合わせますと二千名を越える会員になります。

私たちの教会は一八世紀に、英国で始まったジョン・ウエスレーによるメソジスト教会の流れを汲みます。そして他のプロテスタント教会同様、三世紀以来告白され続けてきた使徒信条を、私達の信仰告白といたします。

